

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX185／都市政策論2 (Urban and Regional Policy 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	都市・地域の政策分析の諸方法		
担当者名 (Instructor)	香川 涼亮(KAGAWA RYOSUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

- ・経済学を応用して都市や地域の問題について論理的に分析できるようになる。
- ・様々な分析手法の習得を通して、主体的市民として都市・地域づくりの現場に関われるようになる。

To be able to logically analyze urban and regional issues by applying economics.

To be able to engage in the field of urban and regional planning as a proactive citizen through the mastering of various analytical methods.

授業の内容(Course Contents)

経済学の考え方を基に、私たちの住む都市・地域の政策分析の様々な手法を学ぶ。まず立地論をテーマに、個々の企業の戦略的行動とその帰結として、都市・地域が形成される原理について考察していく。次に地域経済学の枠組みを学び、地域成長、地域間交易、地域間格差といったトピックについて理解を深める。最後に近年目覚ましい進展がみられる、都市・地域を一体的に分析する空間経済学の枠組みを概観するとともに、統計的手法を用いた環境評価の手法について学ぶ。

Based on the concept of economics, we will learn various methods of policy analysis of the cities and regions we live in. We will begin with the theme of location theory, examining the strategic actions of individual firms and the principles that result in the formation of cities and regions. Next, we will study the framework of regional economics and understand topics such as regional growth, inter-regional trade, and inter-regional inequality. Finally, we will look at the framework of spatial economics, which has made remarkable progress in recent years in analyzing cities and regions in an integrated approach, and learn about methods of environmental assessment using statistical techniques.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション 都市・地域の政策分析とは
2. 立地論の考え方 中位点立地の原理
3. 農業立地の理論 チューネン・モデル
4. 工業立地の理論 ウェーバー・モデル
5. 空間的競争 ホテリング・モデル
6. 地域経済と所得形成
7. 地域成長の経済分析
8. 地域間交易の理論
9. 地域間格差と人口移動
10. 空間経済学とエージェントアプローチ
11. 空間経済学の応用 震災復興
12. 都市環境評価のための統計学・因果推論の方法
13. 都市環境の評価 ヘドニック・アプローチによる東京の地価分析
14. 都市政策論2のまとめ 質疑応答

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- ・授業内で出題・紹介する問題を実際に解き、考え方を理解する(復習重視)。
- ・次回の授業までに答える小課題を課すことがある。
- ・授業に関連する参考文献、ニュースや事例を調べる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(75%)/授業参加状況(発言、質問等)(5%)/提出課題(不定期に出題)(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 佐藤泰裕、2014、『都市・地域経済学への招待状』、有斐閣 (ISBN:9784641150096)

参考文献 (Readings)

1. 黒田達朗・田淵隆俊・中村良平、2008、『都市と地域の経済学[新版]』、有斐閣 (ISBN:9784641183711)
2. 山田浩之・徳岡一幸、2018、『地域経済学入門[第3版]』、有斐閣 (ISBN:9784641165229)
3. 林宣嗣 他、2018、『地域政策の経済学』、日本評論社 (ISBN:9784535558687)
4. 山崎朗 他、2016、『地域政策』、中央経済社 (ISBN:9784502180217)

タイトルだけを見て、扱われる内容を把握することは難しいため、受講生の関心に応じて文献を紹介する。

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

- ・経済学の基本的事項を習得しているか、履修中であることが望ましいが、授業内で基礎から解説する。
- ・ごく大まかに述べると、立地論・空間経済学はミクロ、地域経済学はマクロ、都市環境評価は統計・計量経済学にそれぞれ対応する。
- ・グラフや図を用いて論理的な思考を毎回積み重ねる姿勢が求められる。数式の難しい部分は、必ずしも理解しなくてよいよう配慮する。

注意事項 (Notice)